



永井先生からのメッセージ No.21

～元小学校の先生から保護者の皆さんへ～

2024年 5月10日 野毛山幼稚園



【幼稚園】自分でできることは自分です。

【1・2年】自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。

【3・4年】自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。

【5・6年】より高い目標を立てて、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。

文部科学省・学習指導要領より抜粋

- ① やりたくない ② めんどくさい ③ だれかやってよ
- ④ なんでやらなきゃいけないの ⑤ 大変なことはイヤ
- ⑥ 先生がいればがんばるけど、家ではやりたくない
- ⑦ 自分には無理 ⑧ いつかできるようになればいい
- ⑨ できないことを知られると恥ずかしいからやらない
- ⑩ ごほうびがあればがんばるけど、ないならやらない
- ⑪ やる気満々は最初だけ ⑫ 努力しても無駄かも
- ⑬ 偉い人と自分は違う ⑭ どうせ私は・・・などなど

【アンパンマン と バイキンマン】

▶ どんな人も、「よい心」と「悪い心」をもっている。だから、「よい心」も「悪い心」も大切に話を作ろう。そんな願いから生まれたのが、『それいけ！アンパンマン』。パンづくりにイースト菌が欠かせないように、アンパンマンにはバイキンマンが大切に欠かせない存在なのです。（菌が全滅したら人類は生きていけない）

▶ 『よい心』と『悪い心』という窓からは、いろいろな子どもの姿を見ることができますが、今回は、4月号で取り上げた『自分でできる』ということにスポットを当ててみました。

▶ 「①～⑭」。まだまだ書ききれませんが、大事なことは、次の2つだと思います。



①「本音」とも言える「①～⑭」を、「バイキンマン」のように大切に、共感的に受け止めていきましょう。

②その上で、「①～⑭」をおさえる「アンパンマン」のような心の力(やる気&がまん)を育てていきましょう。

Episode

～詩画家・星野富弘さんを偲んで～

- ▶ 『Yくん』は、野毛山幼稚園・第34回の卒園生(くるみ組)。彼との出会いは、5年生担任になった平成元年。35年前。
- ▶ その彼から、4月30日、久しぶりのLINEが届きました。「お元気ですか。星野富弘さんが亡くなられたようで……」
- ▶ 昭和の終わり。『星野富弘』という人物を知り、感銘を受けていた私は、『Yくん』たちに半ば強引に、星野さんの作品や映像を見せていました。「バイキンマンに負けず、アンパンマンのようなやる気&がまんを」という願いから。……それはともかく
- ▶ 彼からのLINEを見た瞬間に感じたことは、訃報の驚きよりも「遠い昔に学んだことを、今でも忘れずにいてくれる」ということへの感謝でした。さすが、「野毛山育ち」。



つるつるのつる

樹が海に生かす

しかし葉のせい

そこから葉を

花を咲かせた

私もこの花と

同じ水を飲んでいる

同じ光を受けている

強に生かす

